

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520402

研究課題名(和文)「満洲国」時代の文学・芸術に関する総合的研究

研究課題名(英文)An Overall Research on Literature and Art of "Manchukuo"

## 研究代表者

大久保 明男 (Okubo, Akio)

首都大学東京・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：10341942

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「満洲国」時代の文学と芸術諸分野(映画、演劇、音楽など)を研究対象とし、その全体的な状況や基礎的な事実について、まず総体的に把握することに努め、さらに両者の関連性について総合的に解明することを目指すものである。このなかで、文学と芸術諸分野に係る政策や方針、組織や団体、諸活動などの基礎的な事実について、先行研究や文献調査などにより、一部明らかにすることができた。また、文学と芸術の関係性、および両者のはたした役割などについて総合的に考察する作業は現在も進行している。

研究成果の概要(英文)：This research's targets are literature and several fields of art (movie, drama and music) of "Manchukuo". I tried generally to grasp about its overall situation and basic facts. And I aimed to elucidate the relation about literature and the art. The policy, organization and group, and several campaigns about literature and art could be clarified by the preceding study and literature search about the fact in this process. The study on the relationship between literature and other forms of art as well as both of their contributions in social development is still underway.

研究分野：中国文学

 キーワード：中国文学 満洲国 中国東北 植民地文学 国際情報交換 国際研究者交流 映画、演劇、音楽 中国  
近代文化史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究はおおよそ以下に述べる理由により着想に至った。

(1) 近年、日本の植民地支配下地域の文学・文化に対する研究は盛んにおこなわれ、一定の成果が見られる。しかし、朝鮮や台湾に比べ、旧満洲地域(現中国東北部)に対する研究は相対的にいまだ貧弱であると言わざるをえない。たとえば台湾文学に対する研究では、内外において一九八〇年代頃から始まり今日まで持続的におこなわれ、多くの優れた研究成果が得られた。対して「満洲国」文学の先行研究では、一部日本文学研究者の成果はあるが、中国文学側からのアプローチでは目立つものが少ない。一方、中国国内では一九八〇年代末から九〇年代初頭までの一時期、旧満洲で活躍した作家の名誉を回復するための「研究」が盛んで、「東北淪陥時期文学史」のような研究書も数冊出版されたが、その後の研究活動はあまり盛んとは言えない。

(2) 「満洲国」では、特に一九四〇年以降、たとえば「藝文指導要綱」が公布されたように、統治者側はつねに文学をほかの芸術諸分野と総合的にとらえ、国家統合や国策遂行のプロパガンダにその力を最大限に利用した。実際、文学は当時勃興しつつある映画産業やラジオ放送事業、また盛んな音楽や演劇の活動と密接に連携しながら発展してきた。文学のみに着目するこれまでの研究を、芸術諸分野にまで広げて総合的にとらえ、特に両者の関係を究明する研究の重要性や必要性が明らかになったのである。

(3) 筆者は二〇〇三年頃から「満洲国」時期の文学について基礎的、総合的な研究をおこなってきた。特に「満洲国」時期の文学に関わる、日中双方に跨るすべての事象、事件、組織、人物、政策、メディアなどを網羅した基礎文献や基礎研究の蓄積に努めてきた。しかし、これまでの研究では文学に偏重しており、文学とその周辺芸術分野との有機的な関係性に関する総合的な研究視点が不足していたことが否めない。より広い視野を持つ研究成果が得られるために、本研究課題の本格的な展開を待たなければならなかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、「満洲国」時期の文学と映画、演劇、音楽に関わる政府の政策、方針、法律、条例、制度、また、組織、団体、活動などの基礎的な事実を洗い直し、これまでの研究を補完しつつ体系化することを目指した。

さらに文学と芸術諸分野との関連性につ

いて解明し、両者のはたした役割について総合的に考察しようと念頭に置いた。

このなかで、特に注目していたのは、「満洲国」末期の文化政策と文化団体(満洲文藝家協会、劇団協会、楽団協会、満洲藝文聯盟など)であり、その結成や活動、はたした役割や意義について不明な点が多々あり、これらを含めて、総合的な考察や論考を通じて明らかにしていくことを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、およそ次の三段階の作業を踏まえて進められた。

(1) 資料の調査収集作業：本課題に関わる一次的資料(当時発行の新聞、雑誌、書籍や公布された法律、条例など)や先行研究文献を中国現地の図書館や公文書館などに赴き、調査収集する。

(2) 資料の整理や「事典化」作業：上の作業と同時進行で、資料の読み込みや整理をしながら文学、演劇、映画、音楽に関連する重要事項を事典項目のようにまとめ、現在編纂中の前掲『「満洲国」文学・文化関連年表』、『「満洲国」文学・芸術小事典』に組み入れる。

(3) 総合的な考察や論考、成果公開：「満洲国」時期の文学と芸術に関する総括的な考察や論考をおこない、研究成果の公開を目指す。

このなかで、日中両国の図書館や資料館、公文書館、研究機関などを訪ね、資料の調査・収集作業を中心に進めてきた。具体的な調査訪問機関や調査対象は以下のようにまとめられる。

中国側：中国国家図書館、全国図書館文献縮微中心(マイクロフィルムセンター)、中央や東北各地の档案馆(公文書館)、中国電影資料館など。これらの機関で閲覧・複写・購入が可能な資料：当時刊行の主な新聞、雑誌、書籍、官報、公文書など。

日本国内：国会図書館、国際日本文化研究センター、東洋文庫、外務省外交資料館、各大学の図書館など。これらの施設を、おもに中国側の資料を補完、検証するために利用した。

所属する研究機関で閲覧・複写が可能な資料：満洲日日新聞、満洲報など。

このうち、日本の研究機関に所蔵されていない資料について、中国現地へ出向き、調査・収集する必要があった。

なお、研究計画を遂行する上で、予想されなかった問題がいくつか発生した。たとえば調査対象となる新聞、雑誌、書籍などを所蔵する中国国家図書館の改築工事やマイクロ

フィルムセンターの移築工事により、資料調査作業が予定より大幅に遅れたことがあった。また、中国東北の一部の研究機関や図書館（大連市図書館、ハルビン市図書館など）では、資料の紛失や未整理などの理由により閲覧ができないこともしばしばあった。さらに、夏休みを利用した資料収集は、中国側の「抗日戦争勝利記念日」、「蘆溝橋事件記念日」など、いわゆる「反日ムード」の高まる時期と重なり、思う通りに渡航できなかつたり、現地での資料収集に障害が発生したりすることもこの期間中に多々あった。

対応策として、中国国内では東北部以外の地域、中国国外では日本を含めて、台湾、韓国などにも調査範囲を広げたことや、長年学術交流を通じて築いてきた現地関係者の協力を乞うことなどを通じて、解決をはかった。外務省の渡航情報や渡航勧告にも注意を払い、適切な行動を取るよう心がけ、柔軟に対応したと考えている。

#### 4. 研究成果

科研費の支援期間中に得られた一部の研究成果は、たとえば、大久保明男著「大東亜文学者会議と『満洲国』的『文学報国』」(『中日文化文学比較研究 2015』吉林出版集团有限责任公司、2015.11、63-84頁)などの研究論文、および次の項目に示されている学会での発表、著書などであるが、関連の研究は現在も続けており、さらなる研究成果の公刊に向けて準備作業を進めている。

本研究は、日本の植民地支配下地域の文学・文化研究の全体において、立ち後れている「満洲」地域の研究を促進させる上で一定の役割をはたしたと認識している。

また、文学をめぐる歴史的、社会的環境を俯瞰的にとらえ、さらに文学と周辺芸術諸分野との関連性に注目した研究はほとんどおこなわれていなかったが、本研究はそのような現状認識より出発して、研究の視野や領域を広げることに努めた。

さらに、分野や国に跨る調査研究活動を通じて、異分野間の交流や日中両国間の学術交流を促進させることにも寄与したと考えている。

なお、上記関連の研究成果の一部は、日本や中国の学会誌、筆者が世話人を務める研究会誌、勤務先の研究紀要などを通じて発表している。また、日本国内に限らず、中国、韓国などで開催される国際シンポジウムなどに参加し、成果を発表してきた。さらに、筆者個人や所属する研究会、勤務先などのホームページなどを通して研究成果を積極的に発信している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

大久保明男、大東亜文学者会議と『満洲国』的『文学報国』、『中日文化文学比較研究 2015』吉林出版集团有限责任公司、2015.11、63-84頁。査読あり。

大久保明男、緬懷與梅娘交往的日子、『新文学史料』人民文学出版社・北京、2013年第4期(2013.11)、42-47頁。査読あり。

大久保明男、『満洲報』文芸欄の研究(一) < 星期副刊 > の作家と作品、『中国東北文化研究の広場』第三号、2012.8、「満洲国」文学研究会、103-141頁。査読あり。

大久保明男、満洲国の中国人作家、『歴史読本』2011年9月号、新人物往来社、200-205頁。査読なし。

〔学会発表〕(計8件)

大久保明男、『盛京時報』的文芸版「文学」概観、「東亜殖民主義と文学 国際学術研究会」、2015年12月27日、於：中国・上海・華東師範大学

大久保明男、「在満日系」作家筆下の「満洲」和「満人」、『華東師範大学 2015年百場校級講座』、2015年12月25日、於：中国・上海・華東師範大学

大久保明男、『盛京時報』の演劇コラム「劇哨」に見る「満洲国」末期の演劇活動、「第10回 植民主義と文学 国際学術会議」、2014年5月30日、於：韓国・済州・済州大学

大久保明男、「満洲国」における「朝鮮文芸」に関する考察 中国新聞・雑誌からの一瞥、「第9回 植民主義と文学 国際学術会議」、2013年11月1日-2日、於：韓国・大田・韓国科学技術院(KAIST)

大久保明男、「満洲国」留日学生の文学活動と日本文学との交流 1930年代東京の駱駝生を中心に、於：中国・大連民族学院、2012年9月17日

大久保明男、『大同報』文芸欄と梅娘の初期作品、「第8回 植民主義と文学 国際学術会議」、2012年8月23日-25日、於：韓国・原州・延世大学

〔図書〕(計7件)

大久保明男、「満洲国」の漢語作家和漢語文学(仮題)、単著、中国・北方文学出版社、2016.8(出版予定)

貴志俊彦・松重充浩・松村史紀編、『二〇世紀満洲歴史事典』、吉川弘文館、共著、大久保明男、25項目解説執筆担当、2012.12.10

〔その他〕

ホームページ等

大久保明男の研究室

<http://dajiubao.html.xdomain.jp/>

「満洲国」文学研究会

<http://mbk2001hiroba.web.fc2.com/>

植民地文化学会

<http://bunka.my.coocan.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大久保 明男 (OKUBO AKIO)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：10341942